2024 大学入学共通テスト形式

（第２回全統共通テスト模試トライアル）

# 日本史探究復習試験

（第５回）

【範囲：近世史②】

24 問（100 点満点）

**＜共通テスト版読み取り形式／同難易度＞**

模試対策・共通テスト対策用としてファイルください。

実施されたその晩に必ず解き直しをしてください。

スタディ・コラボ

# 日　本　史　探　究

（解答番号 1 ～ 24 ）

**第１問**　高校生のリツさんは、近世の文芸に興味を持ち、先生の助言を受けて、抜粋文や挿絵にまとめて整理してみた。これらを読んで、後の問い（**問1～6**）に答えよ。（配点　25）

抜粋文

Ⅰ　古活字版中の圧巻であり最善最美の刊本は、慶長後期に平仮名交りの木活字本として出版された、国文学書と謡曲本な内容とする一連の「嵯峨本」であろう。別名「光悦本」あるいは「角倉本（すみのくらぼん）」とも呼ばれている。光悦とは、いうまでもなく、ウィリアム・モリスにも比定される（寿岳文章氏）江戸時代初期随一の万能アーティスト（本職は書道と刀剣の鑑定と研ぎ）で、寛永三名筆の筆頭と自負した本阿弥光悦（ほんあみこうえつ）であり、 ア 。角倉は、有名な茶屋四郎二郎らとならぶ イ 角倉了以の息子素庵のことで、やはり嵯峨に住み、ⓐ儒学者・書家としても一家をなしており、光悦を書道の師として親交があった。

Ⅱ　ここでⓑ木版印刷の技法についてもふれておきたい。中国から伝来し、日本では古く奈良朝時代から行われた印刷法である。「整版」とも呼ぶ。

Ⅲ　この争いは、当時、定信の改革政治を諷する痛烈な落首が江戸市中に出回って庶民の喝采を買ったが、その作者が蜀山人らしいとの噂が多かった。たとえば、「 ウ 」については彼自身むろん否定し、…。

Ⅳ　その『東海道中膝栗毛』にしても、遠くは初期仮名草子の『竹斎』や『東海道名所記』、近くは山東京伝の、「東海道五十三駅（つぎ）人間一生五十年」と長い角書のある『凸凹話』（寛政十年刊行）に範をとったものであることは、もはや定説といっていいだろう。（中略）「膝栗毛」とは、膝小僧を栗毛の馬に替えてという意味で、つまりⓒ徒歩旅行の洒落である。

（Ⅰ～Ⅵは、『江戸の本屋』中公新書／鈴木敏夫）

挿絵

## 第５回　近世史②

問１．空欄 ア ・ イ に入る文章の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 1

① ア　家康に与えられた洛北嵯峨の領地鷹ヶ峯に優秀な工人六十名を集めた芸術家村を作り、大工房をもっていた
　イ　京都町衆きっての豪商で、大土木家、御朱印船を動かす南蛮貿易家として有名だった

② ア　家康に与えられた洛北嵯峨の領地鷹ヶ峯に優秀な工人六十名を集めた芸術家村を作り、大工房をもっていた
　イ　明暦の大火の際、木曽福島の材木を買い占め、西廻り海運・東廻り海運を開いた

③ ア　朝鮮出兵において後方兵站を担当し、晩年の秀吉の側近として活躍した
　イ　京都町衆きっての豪商で、大土木家、御朱印船を動かす南蛮貿易家として有名だった

④ ア　朝鮮出兵において後方兵站を担当し、晩年の秀吉の側近として活躍した
　イ　明暦の大火の際、木曽福島の材木を買い占め、西廻り海運・東廻り海運を開いた

問２．空欄 ウ に入る狂歌として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 2

① 泰平の　眠りを覚ます　上喜撰　たつた四杯で　夜も眠れず

② 世の中に　かほどうるさき　ものはなし　ぶんぶというて　夜も寝られず

③ 門松は　冥土の旅の　一里塚　めでたくもあり　めでたくもなし

④ 歌よみは　下手こそよけれ　天地の　動き出して　たまるものかは

問３．下線部ⓐに関連して、儒学者について述べた文として**誤っているもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 ３

① 山鹿素行は、学問と日常が乖離してはならないと説いた。

② 荻生徂徠は、儒学の道とは、堯舜の礼楽刑政を指すと説いた。

③ 伊藤仁斎は、禁欲厳格主義ではなく、善性を伸ばせと説いた。

④ 中江藤樹は、師の熊沢蕃山の時処位論を受け継いだ。

問４．下線部ⓑに関連して、木版印刷の工程と、それを示す挿絵との組合せとして**誤っているもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

４

製本

①

表紙掛け

②

摺

③

丁合（ちょうあい）どり

④

問５．下線部ⓒに関連して、全て西国三十三カ所で構成されているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 5

①　薬師寺・清水寺・石山寺　　②　清水寺・石山寺・三井寺

③　三井寺・石山寺・薬師寺　　④　薬師寺・清水寺・三井寺

問６．挿絵から**読み取れないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

6

①　この当時には既に商標があったことがわかる。

②　耕書堂では山東京伝の作品を扱っていたことがわかる。

③　耕書堂は、版元兼書店であったから、浮世絵版画は取り扱っていなかったことがわかる。

④　当時狂歌が流行していたことがわかる。

**第２問**　高校生のリツさんは、徳川家康に興味を持ち、初版が今から 60 年以上前に出版された家康の研究書と最新の家康の研究書を読み比べて抜粋文にまとめて整理してみた。この抜粋文を読んで、後の問い（**問７～12**）に答えよ。（配点　25）

抜粋文

Ⅰ－ⅰ

意気消沈した家康　三方ヶ原の敗戦直後の肖像。徳川美術館所蔵。

（『徳川家康』1963 年初版：中公新書／北島正元）

Ⅰ－ⅱ

なおまたこの時の大敗を教訓とするために描かれたものとされるものに、いわゆる「顰像（しかみぞう）」がある。しかしこれについても近年、江戸時代後期に作成されたもので、三方ヶ原合戦との関わりを示す根拠もないことが、明らかになっている（原史彦「徳川家康三方ヶ原戦役画像の謎」）。

（『徳川家康の最新研究』2023 年初版：朝日新書／黒田基樹）

Ⅱ－ⅰ

そこで秀吉はまた結婚政策を持ち出し、

「家康には築山殿の死後、正妻がないとのことだから、予の異父妹朝日姫を家康にとつがせたら、かならず上洛するだろう。それでもうたがうのなら、母大政所（おおまんどころ）をおくって人質としてもよい」とまでいいきった。（中略）

家康四十五歳、朝日姫四十四歳で、家康もおしつけられた新妻には愛情をもてたかどうか疑問だが、それよりもあわれなのは朝日姫である。彼女にはすでに佐治（さじ）日向守という夫があったのを、秀吉の命令で無理に離別させられたのであった。日向守は朝日姫を離縁したのち自殺したといわれる。

（『徳川家康』1963 年初版：中公新書／北島正元）

Ⅱ－ⅱ

こうして朝日の大坂出立からも紆余曲折（うよきょくせつ）はあったものの、家康と朝日の結婚は無事におこなわれた。この結婚が、家康からの要請か、秀吉からの申し出か、いずれかは判明しないが、ともあれこれにより、家康は秀吉の義弟という立場になった。（中略）

なお朝日については、前夫がいて、それと離婚のうえで家康と結婚したことが伝えられている。しかしそのことを伝えるのは、いずれも江戸時代中期以降に成立した史料にすぎない。しかも前夫についてはまちまちで、「佐治日向守（さじひゅうがのかみ）」（『改正三河後風土記』、「副田甚兵衛」（『武家事紀』）、「副田吉成」（『尾張志』）などとされている（中村孝也『家康の族葉』）。しかし佐治家に日向守なる人物は存在せず、副田氏の存在は当時の史料で確認され

ない。そのためこれらの所伝が、事実なのかどうか確認する材料すらないのが実情である。

（『徳川家康の最新研究』2023 年初版：朝日新書／黒田基樹）

Ⅲ－ⅰ

上京の宿望をとげるため尾張に侵入した今川義元が、知多郡桶狭間で信長の奇襲をうけて敗死したことは、信長の運命を大きく展開させるとともに、元康の生涯にも一大転換をもたらした。

これを機会に、元康は十二年間の幽囚生活から解放されて岡崎にかえり、中絶された三河領国の統一事業に邁進することになった。

元康は、義元の死後、ただちに子の氏真（うじざね）に父の弔い合戦をすすめたが、氏真にその気がなかったので信長の申し入れに応じ、今川氏をはなれて信長と同盟をむすんだ。これは数十年来つづいてきた松平氏の外交政策に百八十度の転換を断行したことであり、これによって信長の西上策を背後から援助するとともに、自己の東進策を遂行するためのささえをつくったのである。

しかし今川氏から離反することについて、老臣酒井忠尚（ただひさ）はつよく反対し、駿府に人質をおくおおくの家臣もためらったが、元康は自分も駿府にいる妻の築山殿と長男信康（のぶやす）を犠牲にする決意であるといって、みなをなだめた。はたして松平氏の断交をしった氏真はおおいに怒ったが、元康は織田との和睦は単なる戦略にすぎないといいくるめて、氏真を安心させた。

（『徳川家康』1963 年初版：中公新書／北島正元）

Ⅲ－ⅱ

ところがその日、桶狭間合戦で義元が戦死するという、予想外の事態になった。（中略）元康も大高城から退却し、本拠地の岡崎城に後退した。

この時の岡崎城にも、今川方から在城衆が派遣されていた。「松平記」では、今川家家老筆頭の三浦氏員（うじかず）と遠江国衆の引間飯尾連竜（ひくまいいのおつらたつ）であったという。

（中略）そして『三河物語』は、これをもって今川家に「手切れ」（絶交）

し、今川家から自立をとげた、としている。元康が合戦後に、岡崎城に入城したことは確かであろう。（中略）しかし、元康の岡崎入城が、今川家への敵対をともなったというのは誤りである。元康はその後しばらくは、引き続いて今川方として存在していて、織田方との抗争を展開しているからである。（中略）そのため、元康は、全くの自力で岡崎領の防衛にあたらなければならない状態になったといえる。

しかし、これでは元康は、まさに単独で織田方との抗争にあたらなければならなくなる。（中略）そのため元康は、永禄四年二月頃に、織田信長（信秀の嫡男、一五三四～八二）と和睦を結んだとみられている。（中略）しかし、この和睦は、もちろん今川氏真の了解を得たものではなかった。今川家の対応次第では、今川家との「手切れ」となり、今川家との全面抗争となる懸念があった。実際にもその後、そのように展開していくことになる。

（『徳川家康の最新研究』2023 年初版：朝日新書／黒田基樹）

Ⅳ－ｉ　その後、織田氏の圧力はますます加重され、広忠の立場はいっそう困難をくわえたので、その逆境をきりぬけるためには今川氏の強力な後援を必要とした。義元はそれを承知するかわりに六歳の竹千代を人質として駿府におくることを要求した。竹千代は三歳で生母と生別したうえ、さらにここに人質として流離の旅につくことになった。

ところが、竹千代の一行が宝飯郡西郷をすぎて渥美郡田原にさしかかったとき、田原城主戸田康光がまちかまえていて、

「陸路は危険だから、海路を駿河にいったほうが安全だ」といい、一行を船にのせて駿府ならぬ尾州熱田（あつた）におくり、竹千代を織田信秀にひきわたした。

康光は竹千代奪取の謝礼として、永楽銭一千貫を信秀からもらったという。（中略）

竹千代は、名古屋で織田氏の人質として監視づきの生活をおくることにな

たが、二年後の天文十八年（一五四九年）三月、岡崎の父広忠が二十四歳で急死したという悲報に接した。広忠の死は病死ではなく、父清康と同様で、近臣岩松八弥（はちや）に不意におそわれて暗殺されたというのが真相である。（中略）

主君を一朝にしてうしなった松平武士団は、そのあとをたてようとしても肝心の嫡子を人質にとられているために、まったく途方にくれた。義元は織田氏の機先を制して岡崎城を占領し、松平氏の重臣を妻子とともに駿府にうつし、鳥居忠吉（ただよし）ら数人だけをのこして租税と雑務を管理させ、駿府の家臣に命じて交代で城を警護させた。ついで安城城を攻めて信秀の庶子信広（のぶひろ）をとらえ、これと竹千代とを交換することに成功したが、これはもちろん竹千代を解放するためではなく、あらためて人質にするためであった。こうして竹千代は思いがけなく三年ぶりに岡崎にもどることができたが、わずか半月で、ふたたび人質として、今度は駿府に抑留される身となった。

（『徳川家康』1963 年初版：中公新書／北島正元）

Ⅳ－ⅱ

しかし、広忠は、同十八年三月に死去してしまった。これにより竹千代が岡崎松平家の当主になった。なお先に触れたように、竹千代はそれ以前に当主になっていたとする見解もあるが、少なくともこれにより松平家の家長になったことは間違いない。同年九月、今川家は三河に進軍するが、その際に「去る比（ころ）」に竹千代に援軍していたことが知られ、その時点で竹千代が岡崎城に在城していたことが認識される。（中略）

さてこのような経緯をみると、竹千代が織田家に人質に送られていたとする余地はなくなってしまう。通説では、安城城攻略にともなって、人質交換によって織田家から今川家に送られた、とされていた。しかしそれよりもしばらく前から、竹千代は岡崎城にあり、今川方として存在していたとしか考えられない。このため、竹千代が織田家に人質に送られていたとすること自体に、疑問が出されるのである。しかもその件は、『三河物語』な

ど、後世に成立した徳川関係の史料にしか記されていないもので、『信長公記』などの織田関係の良質な史料にはみえていないのである。（中略）
ともかくも竹千代（家康）は、八歳か九歳の時に、今川家の保護下に置かれるにともなって、本拠の岡崎城を離れて、今川家の本拠・駿府に移ることになった。（中略）。そこでの竹千代の立場は、今川家に従属する国衆の岡崎松平家の当主というものであった。しかし年少のため、領国統治や家臣団統制を直接におこなうことはできないので、それらの政務は、在国の家老たちによっておこなわれた。『三河物語』などでは、あたかも今川家に領国を没収されたかのように記されているが、それは全くの誤りである。それは今川家支配下の状況を過酷なものとして描こうとする作為としかいいようがない。

（『徳川家康の最新研究』2023 年初版：朝日新書／黒田基樹）

Ｖ－ｉ

家康も遠江から駿河へ着々と経略の手をのばしたが、信玄以来うえつけられた武田氏の勢力はまだねづよいものがあったし、関東の北条氏の動きも油断ができなかった。その軍事的緊張のなかで、家康は妻と長男信康をわが手で殺害しなければならない悲運に見舞われたのである。（中略）
永禄十年、信康は九歳で信長の娘徳姫と結婚した。徳姫も同年の九歳であった。（中略）夫婦仲はよく、のちに二人の女子が生まれたが、（中略）このため徳姫と築山殿との関係が悪化し、さらに信康夫妻のなかが不和となった。
徳姫は父の信長に十二ヵ条をかかげて、信康が築山殿と共謀して武田氏に内通したと報告した。はたして内通したかどうかは確証がないのではっきりしないが、信長としては、娘のいうことでもあるし、（中略）、さっそく家康の家老酒井忠次をよびつけて十二ヵ条が事実かどうか詰問をした。ところが忠次はその十ヵ条まですこしも弁解せず、肯定したので、よもやと思った信長も、「徳川の家老の重責にあるものがそこまでみとめるなら、内

通も事実であろう。信康に切腹させるよう家康につたえよ」と命じた。（中略）
家康は家臣に命じて、築山殿を浜松に近い富塚で殺害させた。（中略）信康に対しても、一ヵ月半にわたって各所にうつし、切腹をおくらせていたとみられるふしがある。（中略）信康は、父に武田氏との内通一件はまったくの無実であるとよくよく伝えてくれと言いのこして、みごとに腹を切った。まだ二十一歳の若さであった。

（『徳川家康』1963 年初版：中公新書／北島正元）

Ｖ－ⅱ
築山殿（つきやまどの）・信康（のぶやす）事件というのは、（中略）家康が岡崎城主であった嫡男・松平信康を、「逆心」を理由に追放し、次いで幽閉し、同時に家康の正妻で信康の生母であった築山殿を幽閉したことにはじまり、（中略）築山殿を自害させ、続いて（中略）信康を自害させた、というものである。（中略）
しかしながら、事件については、関係史料がほとんど残っておらず、真相は現在でも判明しない。（中略）そこには、信長の長女で信康の正妻であった五徳（ごとく）が、信康の不行状を十二ヶ条の条書にまとめて信長に訴訟し、信長からその真偽について酒井忠次が尋問をうけ、堺がすべて事実であることを認めたため、信長は家康に、信康を切腹させるように命じた、と記されている。（中略）
ところが家康が堀秀政に宛てた書状や、『当代記』『安土日記』（『信長公記（しんちょうこうき）』の古態本）など信頼性の高い史料によって、信康処罰は、家康から信長に申請したもので、信長から、家康の考え通りとしてよい、と了解を得たにすぎないことが明らかになっている。したがって処罰の意志は、家康にあったのである。（中略）築山殿の死去は、岡崎から浜松に移送される途中のことであった。一般的には家康によって殺害されたとされているが、その死去について記すなかで最も成立時期が古い『石川正西聞見集』は、三方ヶ原（みかたがはら）で輿（こし）の中で自害した、と記している。これがもっとも妥当である

とみなされる。(『徳川家康の最新研究』2023 年初版:朝日新書／黒田基樹)

Ⅵ－ⅰ

翌三年には、信玄以来武田氏の得意とする攪乱戦術をもちいて、家康の気に入りの家臣大賀弥四郎という者を内通させ、その手引きで大挙三河に侵入した。(中略)

勝頼は侵入の途中、弥四郎の内通が発覚したことをしったが、そのまま進軍し、家康の家臣奥平信昌が五百の兵でまもる長篠城をかこんだ。

(『徳川家康』1963 年初版：中公新書／北島正元)

Ⅵ－ⅱ

大岡弥四郎事件とは、徳川家家臣で岡崎町奉行の一人であった大岡弥四郎が、町奉行の相役の松平新右衛門尉、信康の家老の一人で岡崎城代であった鳥居九兵衛の家臣小谷九郎左衛門尉・倉地平左衛門尉らと謀って、武田軍を岡崎城に引き入れて、岡崎城を武田方にしようとする謀叛事件を企てたところ、鳥居の家臣で謀議にも参加していた山田八蔵が裏切って、事の次第を岡崎城に通報したことで謀議が発覚し、大岡らは捕縛されたうえで処罰され、謀叛事件は未然に防がれた、というものである。

この事件については、当時の史料には記されていないが、(中略) 事件の存在そのものは事実とみなされる。(中略) そのため首謀者については、かつては「大賀弥四郎」と称されていた。しかし、江戸時代前期後半の成立とみなされるものの、岡崎で成立した記録で、事件の顛末についてもっとも詳しく記している『岡崎（三河）東泉記』『伝馬町旧記録』には、大岡弥四郎と記されていて、大岡苗字は徳川家譜代家臣にみられるものであることから、その名が正しいとみなされている。

(『徳川家康の最新研究』2023 年初版：朝日新書／黒田基樹)

Ⅶ－ⅰ

秀吉の未亡人杉原氏（北政所）は、事情を察して大坂城西の丸をでて京都にうつったので、家康はそのあとにはいったのである。居をうつした家康

は、利長の反逆をせめて加賀へ出兵する決意をほのめかした。

（『徳川家康』1963 年初版：中公新書／北島正元）

Ⅶ－ⅱ

また大坂城西の丸入場後から、前田利長とのあいだに不穏な状況が生じた。通説では、家康は利長を追討する「加賀征伐」を企てた。とされているが、大西泰正氏の検討により、それは虚説であることが明らかになっている。

（『徳川家康の最新研究』2023 年初版：朝日新書／黒田基樹）

Ⅷ―ⅰ

さらに関東転封後の主城をどこにするかについても、秀吉は小田原をさけて江戸にするようにすすめたというが、これが事実なら、ますますこの転封が、秀吉の積極的な意志にもとづいていることがあきらかとなる。

（『徳川家康』1963 年初版：中公新書／北島正元）

Ⅷ－ⅱ

結果として、家康は旧北条家領国のほとんどにあたる、伊豆・相模・武蔵（むさし）・上野（沼田領を除く）下総（しもうさ）（結城（ゆうき）領を除く）・上総（かずさ）・下野（足利（あしかが）領・皆川領のみ）七ヶ国二四〇万二〇〇〇石に転封（てんぽう）になり（上総半国は里見家領国であったが、下野壬生（みぶ）家領・佐野家領・小山（おやま）家領と相殺されるかたちになる）、本拠は秀吉の意見によって武蔵江戸城（千代田区）におかれることになった。

（『徳川家康の最新研究』2023 年初版：朝日新書／黒田基樹）

**問７**．抜粋文Ⅰ～Ⅷ（ⅰ・ⅱを問わず）を以下のように左から年代の古い順番に並べ替えた際、空欄［あ］・［い］に入る組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。［７］

【Ⅳ→○→［あ］→○→○→［い］→○→Ⅶ】

①　あ－Ⅰ　　い－Ⅴ　　②　あ－Ⅰ　　い－Ⅱ

③　㋐－Ⅲ　　㋑－Ⅴ　　④　㋐－Ⅲ　　㋑－Ⅱ

問８．新たに以下の文章Ⅸ－ⅱが加わったとして下のように左から年代の古い順番に並べ替えた際、Ⅸ－ⅱが入る位置として正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。（ⅰ・ⅱを問わず）［ 8 ］

Ⅸ－ⅱ

しかし、秀吉の攪乱工作のくさびは、ついに直接家康のふところにうちこまれた。同年十一月十三日、家老石川数正が突如岡崎を出奔して秀吉に服属した事件がそれである。（中略）

数正は妻子をつれて尾張にでて、それから大阪にいったが、これを迎えた秀吉の態度はつめたかったという。

（『徳川家康』1963 年初版：中公新書／北島正元）

【Ⅳ→○→○→○→○→○→○→○→○→Ⅶ】

①　（Ⅳから数えて）左から４番目

②　（Ⅳから数えて）左から５番目

③　（Ⅳから数えて）左から６番目

④　（Ⅳから数えて）左から７番目

問９．抜粋文Ⅰ・Ⅱ（ⅰ・ⅱを問わず）に関して述べた次の文ａ～ｄについて、近年の研究においてかつての通説を覆した内容として最も適当なものの組合せを、次の①～④のうちから一つ選べ。［ 9 ］

ａ　徳川家康の「顰像（しかみぞう）」は、三方ヶ原の戦いの直後ではなく、江戸時代後期に作成されたものであることが明らかになった。

ｂ　徳川家康の「顰像（しかみぞう）」は、三方ヶ原の戦いの直後ではなく、大坂夏の陣で真田勢に本陣を突き崩された直後に作成されたものであることが明らかになった。

ｃ　朝日姫の前夫の一人に挙げられていた佐治日向守であるが、当時佐治家の中に日向守なる人物は、存在しないことが明らかになった。

ｄ　朝日姫の前夫が佐治日向守ではなく、副田甚兵衛であることが明らかになった。

①　ａ・ｃ　　②　ａ・ｄ　　③　ｂ・ｃ　　④　ｂ・ｄ

問 10. 抜粋文Ⅲ・Ⅳ（ｉ・ⅱを問わず）に関して述べた次の文ａ～ｄについて、近年の研究においてかつての通説を覆した内容として最も適当なものの組合せを、次の①～④のうちから一つ選べ。 10

ａ　元康（徳川家康）が桶狭間合戦後に、岡崎城に入城したことは確かであるが、元康の岡崎入城が今川家への敵対をともなったというのは誤りであることが明らかになった。

ｂ　元康（徳川家康）が桶狭間合戦後に、今川氏真から義元の弔い合戦に出陣するように要請があったのを断ったことをもって今川家からの自立を果たしたことが明らかになった。

ｃ　通説では、安城城攻略にともなって、人質交換によって織田家から今川家に送られたとされてきたが、竹千代が織田家に人質に送られていたとすること自体に、疑問が出される。

ｄ　通説では、安城城攻略にともなって、人質交換によって今川家から織田家に送られたとされてきたが、竹千代が今川家に人質に送られていたとすること自体に、疑問が出される。

①　ａ・ｃ　　②　ａ・ｄ　　③　ｂ・ｃ　　④　ｂ・ｄ

問 11. 抜粋文Ⅴ・Ⅵ（ｉ・ⅱを問わず）に関して述べた次の文ａ～ｄについて、近年の研究においてかつての通説を覆した内容として最も適当なものの組合せを、次の①～④のうちから一つ選べ。 11

ａ　かつては、築山殿は、自害したとされてきたが、家康の命令で殺害

されたことが明らかになった。

b　信康処罰は、家康から信長に申請したもので、信長から、家康の考え通りとしてよい、と了解を得たにすぎないことが明らかになった。

c　大賀弥四郎が武田家に内通していた事実が無かったことが明らかになった。

d　大賀弥四郎（おおがやしろう）は誤りで、大岡弥四郎であることが明らかになった。

①　a・c　　②　a・d　　③　b・c　　④　b・d

問 12. 抜粋文Ⅶ・Ⅷ（ⅰ・ⅱを問わず）に関して述べた次の文ａ～ｄについて、近年の研究においてかつての通説を覆した内容として最も適当なものの組合せを、次の①～④のうちから一つ選べ。 12

a　家康が加賀征伐を企てたというのは、虚説であることが明らかになった。

b　家康が前田利家の暗殺を企てたことが明らかになった。

c　旧北条家領国に転封された家康は、秀吉の意見に従い、江戸に本城を置いた。

d　旧北条家領国に転封された家康は、秀吉が小田原に本拠を置くべきだとの意見を退け、江戸を本拠とした。

①　a・c　　②　a・d　　③　b・c　　④　b・d

**第３問**　高校生のリツさんは、近世の農村に興味を持ち、先生の助言を受けて、抜粋文や資料・図にまとめて整理してみた。これらを読んで、後の問い（問 13～18）に答えよ。（配点　25）

抜粋文

Ⅰ　検地とは、領主が行う土地の調査です。戦国大名や織田信長（おだのぶなが）も検地を実施しましたが、豊臣秀吉はそれを全国規模で行いました。それが太

閣検地であり、「天正の石直し」ともいいます。検地は、検地条目という施行細則にもとづき、検地奉行（検地の実施責任者）以下の検地役人が、現地に出向いて実施しました。

検地は村ごとに行われました。ですから、個々の土地の調査に入る前に、まずは村の境界が確定されました。これを「村切り」といいます。村切りによって村境が変わったり、従来曖昧だったものが明確化されたり、一つの村が複数に分割されたりしたところは少なくありません。逆に、複数の集落で一つの村とされたケースもありました。

Ⅱ　一七世紀は、人口と耕地面積が急増した、日本史上でも特筆すべき時期でした。一六〇〇年頃の全国総人口は約一五〇〇万～一六〇〇万人、耕地面積は約一六三万五〇〇〇町と推計されています。それが享保六（一七二一）年には約三一二八万人、耕地面積約二九七万町へと急増しました。［　ア　］に増加したのです。

Ⅲ　「家名」とは、家に代々伝わる名乗りです。江戸時代の百姓は、一般に苗字をもっていました。ただ、それを公的な場で名乗ることを許された人は、ごく一部でした。そこで各家の家長は代々同じ名前（勘左衛門とか吉兵衛とか）を名乗って家名とし、それによって家の連続性を象徴的に表示したのです。家を継ぐ男子は若いうちだけ別の名を名乗り、父親から家督を相続すると、父と同じ名前に改名します。名前全体ではなく、名前のうちの一字を代々継承する場合も多くありました。こうした襲名慣行は、現代でも歌舞伎や落語の世界などで見られる通りです。

Ⅳ　村のなかには、多様な身分が存在していました。

まず、百姓とそれ以外の身分とがあります。狭義で百姓身分とされるのは、実は一家の家長（戸主）だけなのです。その妻・子供・老親・兄弟姉妹などは、家長とのつながりによって百姓身分に準じる地位とされました。また有力百姓の家には、家長と血縁関係にない奉公人・下人もい

ました。村を考える際には、彼ら・彼女らにもきちんと目配りしなければなりません。

さて、百姓身分のなかでも身分上の格差がありました。村を開発した家が「草分(くさわ)け」として特別の家格を保持している場合もありましたし、百姓内部が大前(おおまえ)・小前(こまえ)に分かれている村もありました。本家と分家、土地を所持する本百姓と所持しない水呑(みずのみ)百姓との間など、細々とした格差が存在していたのです。

Ⅴ　次に「無年季的質地請戻(むねんきてきしっちうけもど)し慣行」という、江戸時代に広範に見られた興味深い慣行を紹介しましょう。現代では、土地に限らず物品を質入れする際、請戻し期限が明確に設定されています。期限内に請戻せなければ質流れとなって、担保物件の所有権は移転してしまいます。私たちは、契約である以上それで当然だと考えています。

ところが江戸時代には、必ずしもそうではありませんでした。期限が来ても請戻せず、その時点で質流れにしてしまった土地でも、それから何年経とうが元金を返済しさえすれば請戻せるという慣行が、広く存在していたのです。質流れから一〇年、二〇年、場所によっては一〇〇年経っても請戻しが可能だったのです。

Ⅵ　百姓の負担の中核は、本年貢(ほんねんぐ)です。本年貢とは、高請地(たかうけち)（検地によって石高が決められた田畑・屋敷地）に賦課された年貢のことで、本途物成(ほんとものなり)ともいいます。

本年貢の賦課方法には、厘取法(りんどりほう)と反取法(はんどりほう)があります。厘取法は、石高に対して何割何分何厘というかたちで年貢率（これを免(めん)といいます）を掛けて年貢量を決定する方法です。反取法は、面積を基準に一反当たりの年貢額を決め、面積（単位：反）×反当たり年貢額＝年貢量というかたちで年貢量を決定する方法です。 イ 。

（Ⅰ～Ⅵは、『百姓の力』角川ソフィア文庫／渡辺尚志）

## 第５回　近世史②

資料１

信濃国諏訪郡瀬沢村（現、長野県諏訪郡富士見町）の坂本家

坂本家の家族構成　（　　）内は年齢

| | |
|---|---|
| 1825（文政 8） | 嘉兵衛（49）女房（40）勝兵衛（24）たゑ（18）ます（14）ゆわ（12）すえ（6） |

資料２

文政 10（1827）年の坂本家の農作業

| 旧暦 | 作業内容 |
|---|---|
| 4 月 15 日 | 本田の施肥始まる。21 駄分の肥料を入れる |
| 16 日 | 本田に施肥、30 駄 |
| 4 月 27 日 | 種籾の浸種 |
| 28 日 | 田打ちなど苗代（本苗代に続いてつくられた追苗代）作りを行ない、下肥（人糞尿）を施す |
| 29 日 | 苗代に播種 |
| 晦日 | 本田に施肥、76 駄 |
| 5 月 1 日 | 本田に施肥、54 駄 |
| 5 月 8 日 | 油荏と稗の種蒔き、肥料として灰・下肥・粉糠を施す |
| 13 日 | 粟、餅粟、かり豆、稗の種蒔き |
| 16 日 | 釜無山の口明け |
| 16 日～23 日 | 合わせて 82 駄 3 束（1 駄は 6 束）の刈敷（山野で採取した草や木の葉）を本田に入れる |

| 旧暦 | 作業内容 |
| --- | --- |
| 23〜25 日 | 延べ 33 人、馬 8 匹を使って、刈敷を田へ踏み込む「ふませ」を行なう |
| 28〜6 月 2 日 | 田植え、延べ 35 人によって、9 駄 4 束半の苗を植える |
| 6 月 7〜9 日 | 大麦の収穫、収穫量 1 石 |
| 閏 6 月 6 日 | 大根の種蒔き |
| 12 日 | 蕎麦の種蒔き |
| 20〜21 日 | 芋の収穫、あとに菜種を蒔く |
| 24〜7 月 29 日 | 59 駄 4 束の干草を田へ施す |
| 8 月 23 日 | 餅粟 1 斗 5 升 3 合、稗 8 斗 4 升の収穫 |
| 27 日 | 稗 2 石 6 斗 5 升の収穫 |
| 晦日 | 油荏 5 升 5 合の収穫 |
| 9 月 1 日 | 小豆 7 升、粟 1 石 6 斗の収穫 |
| 3 日 | 稲刈り開始 |
| 4 日 | 大豆 2 斗 2 升収穫 |
| 6 日 | 大豆 2 斗 7 升収穫 |
| 11 日 | 蕎麦 1 石 2 斗 6 升収穫 |
| 14 日 | 稲揚げ |
| 17 日 | 稲扱き |
| 19 日 | 稲の脱穀調製作業終了、収穫量は玄米で 20 石 5 斗 5 升 9 合。油荏 7 升収穫 |
| 10 月 7 日 | 大根 6 駄 3 束収穫 |
| 16 日 | 菜 10 駄 3 束収穫 |

（文政 10 年「耕作諸事日記帳」より作成）

図１（歌川貞虎「豊年万作の図」）

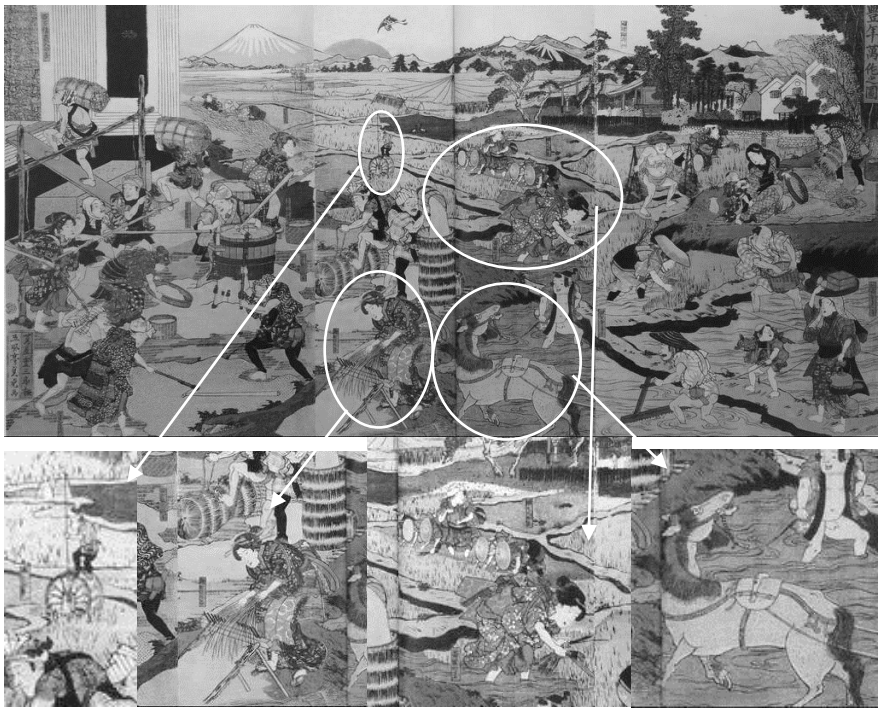


図２（刈敷の光景『善光寺道名所図会』）

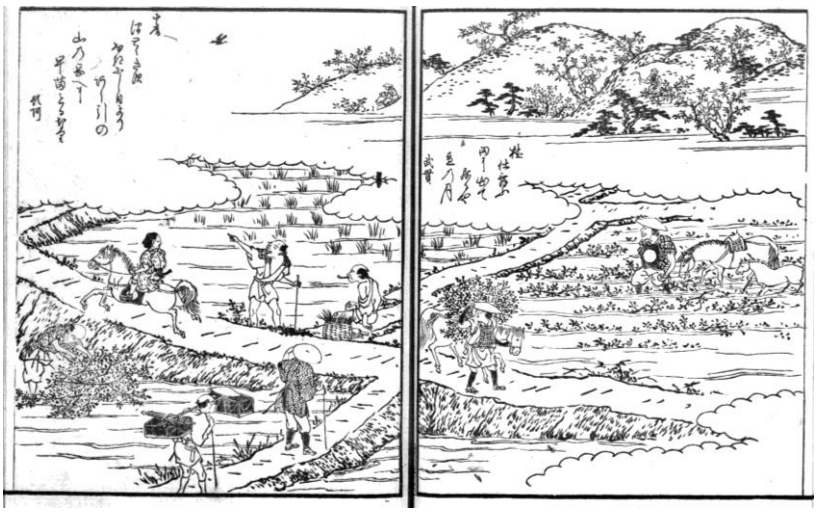


図３（寺子屋の様子）

問 13. 空欄 ア ・ イ に入る文章の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 13

① ア　人口は約二倍、耕地面積は約一・八倍に増加したのです
　イ　反取法の場合、年貢量の決定に際して石高は直接には必要とされません

② ア　人口は約二倍、耕地面積は約一・八倍に増加したのです
　イ　厘取法の場合、年貢量の決定に際して石高は直接には必要とされません

③ ア　人口は約一・八倍、耕地面積は約二倍に増加したのです
　イ　反取法の場合、年貢量の決定に際して石高は直接には必要とされません

④ ア　人口は約一・八倍、耕地面積は約二倍に増加したのです
　イ　厘取法の場合、年貢量の決定に際して石高は直接には必要とされません

問 14. 抜粋文Ⅲ～Ⅵについて述べた文として**誤っているもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 14

① 江戸時代の百姓は、一般に苗字をもっていた。

② 百姓身分のなかでも本百姓と水呑百姓などの身分上の格差があった。

③ 江戸時代には、無年季的質地請戻し慣行と呼ばれる質流れにしてしまった土地でも、それが何年経とうが元金を返済すれば請戻せるという慣行が広く存在していた。

④ 本年貢は、検地によって石高に定められた田畑には賦課されたが、同じく石高が定められた屋敷地には賦課されなかった。

問 15. 資料１・２について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 15

① 本田に施肥をするのは、旧暦の 4 月だけである。

② 旧暦の 5 月 23 日～25 日にかけて行われたふませには、2 年前の坂本家の家族構成から考えて、明らかに結と呼ばれる村内の労働力の協力を得ている。

③ 旧暦の 10 月に稲刈りが開始されている。

④ 閏 6 月には苧を収穫した後に大麦の種蒔きを行なっている。

問 16. 図１から**読み取れないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 16

① 田植えは、女性の役目であったことがわかる。

② 揚水機の竜骨車が描かれている。

③ 脱穀機の千歯扱きが描かれている。

④ 農作業に馬を用いている。

問 17. 図２に関して述べた次の文Ｘ・Ｙについて、その正誤の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 17

Ｘ　江戸時代には、刈敷は、肥料ではなく、薪として利用された。

Ｙ　江戸時代には、刈敷は、行商人から現金で購入していた。

①　Ｘ　正　　Ｙ　正　　②　Ｘ　正　　Ｙ　誤

③　Ｘ　誤　　Ｙ　正　　④　Ｘ　誤　　Ｙ　誤

問 18. 図３や以下の表に関して述べた次の文Ｘ・Ｙについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 18

表（全国の寺小屋の開業数）

| 年代 | 開業数 | 年代 | 開業数 |
|---|---|---|---|
| 1624 年～1680 年 | 38 | 1844 年～1853 年 | 2,398 |
| 1681 年～1715 年 | 39 | 1854 年～1867 年 | 4,293 |
| 1716 年～1735 年 | 17 | | |
| 1736 年～1743 年 | 16 | | |
| 1744 年～1750 年 | 14 | | |
| 1751 年～1763 年 | 34 | | |
| 1764 年～1771 年 | 30 | | |
| 1772 年～1780 年 | 29 | | |
| 1781 年～1788 年 | 101 | | |
| 1789 年～1800 年 | 165 | | |
| 1801 年～1803 年 | 58 | | |
| 1804 年～1817 年 | 387 | | |
| 1818 年～1829 年 | 676 | | |
| 1830 年～1843 年 | 1,984 | | |

X　19 世紀に入ると、明治維新を迎えるまでの期間に全国の寺子屋の開業数は、100 倍以上に増えた。

Y　寺子屋には年齢が違う子供が通い、一斉集団授業が展開されていた。

①　X　正　　Y　正　　②　X　正　　Y　誤

③　X　誤　　Y　正　　④　X　誤　　Y　誤

**第４問**　高校生のリツさんは、朝鮮通信使に興味を持ち、先生の助言を受けて、年譜や抜粋文にまとめて整理してみた。これらを読んで、後の問い（**問 19～24**）に答えよ。（配点　25）

年譜

| 年次 | 回数 | 目的 |
|---|---|---|
| 1607 | １回 | 国交回復・ⓐ文禄慶長の役時の捕虜返還 |
| 1617 | ２回 | ⓑ大坂の陣で国内平定したことの祝賀など |
| A | | |
| 1643 | ５回 | 日光東照宮落成祝賀・家綱誕生祝賀 |
| B | | |
| 1719 | ９回 | 吉宗襲封祝賀 |
| C | | |
| 1764 | 11 回 | 家治襲封祝賀 |
| D | | |
| 1811 | 12 回 | ⓒ家斉襲封祝賀 |

抜粋文

Ⅰ　ⓓ加藤清正が福建の明軍司令官に書簡を送り、朝鮮との早期講和を要請し、中国人捕虜を送還した。

Ⅱ　駿河久能山の東照社に祀られていた徳川家康の霊廟が僧天海の発議により下野国二荒山の麓に移され、将軍家光が御三家・家門・諸大名だけでなく、勅使や門跡も従えて参拝し、神格も「東照大権現」と改まった。まさに国家社稷の霊域となったのである。（中略）家光は、通信使はこの日光新廟に参詣されたい、と言い出した。

Ⅲ　この時の芳洲の役割は、対馬藩の真文役として、円滑に旅程をすすめ、三使臣や通信使随員との間に立って、日本側の用意したすべての行事や手続きを説明し、調整することであった。

（Ⅰ～Ⅲは、『朝鮮通信使』岩波新書／仲尾宏）

問 19. 以下の絵画で描かれた出来事があった時期として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 19

①　A　　②　B　　③　C　　④　D

問 20. 抜粋文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列されたものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。 20

①　Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ　　②　Ⅰ→Ⅲ→Ⅱ

③　Ⅱ→Ⅰ→Ⅲ　　④　Ⅱ→Ⅲ→Ⅰ

⑤　Ⅲ→Ⅰ→Ⅱ　　⑥　Ⅲ→Ⅱ→Ⅰ

問 21. 下線部ⓐに関連して、以下の史料について述べた文として**誤っているもの**を、後の①～④のうちから一つ選べ。 21

［史料］

覚

一、殿下、陣用意、油断有るべからず候。来年正二月比、進発たるべき事。

一、高麗都（注 1）去二日落去（注 2）候。然る間いよいよきっと御渡海成され、此度大明国迄も残らず仰せ付けられ大唐の関白殿御渡し成さるべく候事。

一、大唐の都（注 3）へ叡慮うつし申すべく候、其御用意有るべく候。明後年行幸たるべく候。然れば、都廻の国十ケ国これを進上すべく候。其内にて諸公家衆何も知行仰せ付らるべく候。下ノ衆十増倍たるべく候。其上の衆ハ仁体（注 4）に依るべき事。

一、大唐関白、右仰せられ候如く、秀次江譲らせらるべく候。日本関白ハ大和中納言（注 5）、備前宰相両人の内覚悟次第、仰せ出さるべき事。

一、日本帝位の儀、若宮（注 6）、八条殿（注 7）何にても相究めらるべき事。

五月十八日　　秀吉　（花押）

関白殿

（『前田家文書』）

（注 1）高麗都：漢城　　（注 2）落去：陥落

（注 3）大唐都：明の首都北京　　（注 4）仁体：人柄

（注 5 ）大和中納言：豊臣秀長の養子秀保。秀次の弟。

（注 6）若宮：東宮の良仁親王。1601 年に東宮の地位を追われ出家した。

（注 7）八条殿：八条宮智仁親王。別邸が桂離宮。

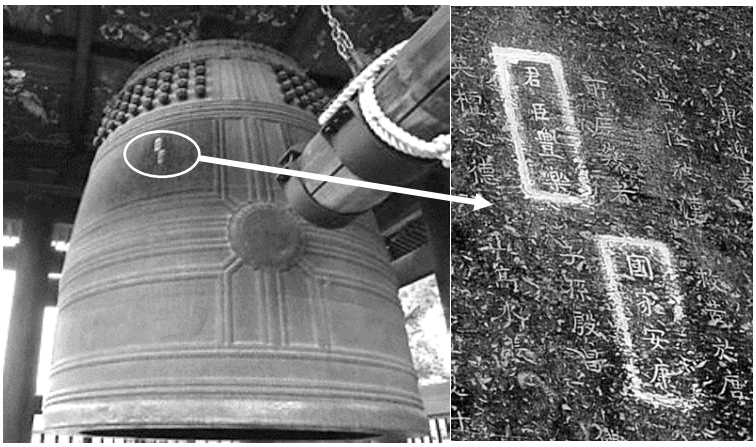
① **史料**中の殿下と関白殿は、いずれも豊臣秀次のことである。

② **史料**中の叡慮とは後陽成天皇である。

③ **史料**によれば、北京に日本の天皇を遷すとある。

④　**史料**によれば、豊臣秀次を唐の関白となしたら、日本には関白を置かないとある。

**問 22.** 下線部ⓑに関連して、以下は、大坂の陣の直接の要因となった鐘である。この鐘に関して述べた次の文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 **22**




X　写真にある鐘銘の国家安康の部分を幕府は、豊臣家に対し、家康の名前を分割して家康を呪詛するものであると非難した。

Y　写真の鐘は、秀吉の存命当時に方広寺に備え付けられた。

①　X　正　　Y　正　　②　X　正　　Y　誤

③　X　誤　　Y　正　　④　X　誤　　Y　誤

**問 23.** 下線部ⓒに関連して、家斉の将軍職在任の前半は、松平定信の補佐を受けた。以下の史料は、寛政の改革に対する批判を記したものである。この史料に関して述べた次の文 a ～ d について、最も適当なものの組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。 **23**

［史料］

越中守御老中仰付けられ、主殿頭の悪習をため直さんと仕り候。志はよろしく候へ共、世人初めて見込み候と違ひ器量少く、学問に名これ有り候てもいまだ文面にかかわる事をまぬかれず。世を安んずべき深意の会得疎にて、片端より押直さんと仕り、たとへば手にてもみ立て候如く瑣細（注１）に取動し故、大小の罪科夥しく出来り、猶も隠密・横目（注 2）のものいたらざるくまもなく穿鑿し出し、諸事疑心をはなれ候はこれ無く、利を専一と仕り候事は主殿頭に上越し、聚斂（注 3）益々重く、土民一同大に望を失ひ、却て田沼を恨み候は、うしとみし世ぞ今はこひしき、当時よりは、あきはてたる田沼のかた、はるかましなりと申合せ候は、能々（注 4）の事に御座候。天下は天下の天下なり、民の心を以て心とする事とこれ有り候得ば、たとへ名目と理窟（注 5）とは尤もに当り候ても、天下の人心にかなひ申さず候ては、決て善政には御座なく候。主殿頭の人の心服を失ひ候上、越中守にて益々人心信服これなく怨み歎き候へば、形容は大に替り候ても、天下の御不為（注 6）は、越中守は主殿頭の二の舞とも申すべく候。

（『賤策雑収』／植崎九八郎）

（注 1）瑣細：とるにたらない様　（注 2）隠密・横目：密偵みたいな存在
（注 3）聚斂：厳しく租税をとりたてること　（注 4）能々：よっぽど
（注 5）理窟：理屈　（注 6）不為：ためにならないこと

a　**史料**によれば、世間は、当初の見込みが外れて松平定信の器量を少ないと見ていた。

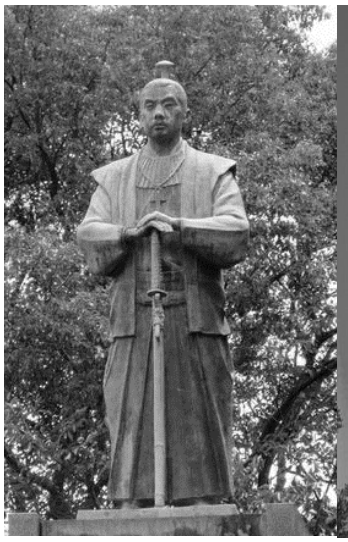
b　**史料**によれば、松平定信は、田沼意次ほどは租税を厳しく取り立てることはなかった。

c　**史料**によれば、世間は、寛政の改革期より田沼時代の方がはるかにましだったと感じていた。

d　**史料**によれば、著者は、田沼意次は、天下の役に立ったが、松平定信は、天下の役に立たない人物だと考えていた。

①　a・c　②　a・d　③　b・c　④　b・d

問 24. 下線部ⓓの銅像を、次の①～④のうちから一つ選べ。 24



①

②

②

④

＊問題はここまでです。次ページから解答解説となりますので開けないでください。

## 【第５回　近世史②解説】

1　③④ア　これは神屋宗堪の説明。②④イ　これは河村瑞賢の説明。

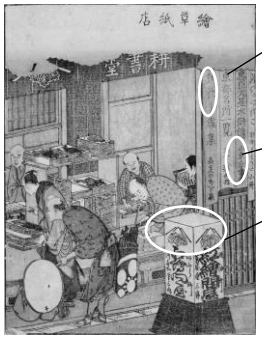
2　文脈上、寛政の改革を風刺する落首を選ぶから、②。①ペリー来航であわてる幕府を揶揄した。③ 一休宗純 の狂歌とも言われ、正月に門松をたてるのはめでたいことではあるが、一年一年歳を重ね、それだけ冥途に近づいているからめでたくもないと言っている。④宿屋飯盛（石川雅望）の狂歌。『古今集』仮名序にある、“力もいれずして、天地を動かし、目に見えぬ鬼神をもあはれと思わせ、男女の仲もやわらげ、猛き心の武士をも慰むるは、歌なり”を取り入れたもので、あまり上手な歌を詠んで天地が動くようなことがあってはならないから、歌詠みは下手くそでいいのだという意味。

3　④中江藤樹の弟子が熊沢蕃山。

4　②表紙掛けではなく、化粧裁ちと呼ばれる工程。ちなみに以下が表紙掛けの工程を示す挿絵である。

5　難しくはない。そもそも西国三十三か所とは観音霊場を指し、本尊を観世音菩薩とする寺院であることを知っておきたい。観世音菩薩が衆生を救うとき 33 の姿に変化するという信仰に由来する。薬師寺は、もちろん本尊が薬師三尊像である。よって、薬師寺が含まれていない②。

6　読み取れるか読み取れないかであるので、挿絵からは、浮世絵版画を取り扱っているかどうかよくわからない。耕書堂では、喜多川歌麿や東洲斎写楽の浮世絵版画を販売していた。




狂歌とある

山東京傳とある。

蔦屋の商標が見える。

**7**　選択肢を利用すれば全く難しくない。共通テストでは年次は問われないが、共通テストレベルにおける徳川家康の履歴を古い順に並べれば、桶狭間の戦いに今川方の一将として参戦（1560）→織田信長と攻守同盟成立（1561）→姉川の戦い（1570）→（これは共通テストレベルではないが）三方ヶ原の戦いで武田信玄に惨敗（1572）→長篠合戦で織田信長とともに武田勝頼軍を撃破（この過程で共通テストレベルではない大岡弥四郎事件発覚）（1575）→（これは共通テストレベルではないが）武田勝頼に内通したとされる築山殿・信康事件（1579）→小牧・長久手の戦い（1584）→（これは共通テストレベルではないが）重臣石川数正出奔事件（1585）家康が秀吉に臣従（この過程で秀吉の妹朝日姫が家康に嫁ぐ）（1586）→小田原の陣・家康関東入封（1590）→関ヶ原の戦い（1560）→家康征夷大将軍就任（1603）→大坂の陣（1614・1615）。では問題文を見る。Ⅰ（三方ヶ原合戦）Ⅱ（朝日姫が家康に嫁ぐ☛小牧・長久手の戦いの後だとわかる）Ⅲ（桶狭間の戦い）Ⅳ（徳川広忠の時代）Ⅴ（築山殿・信康事件）Ⅵ（大岡弥四郎事件☛勝頼が三河に侵攻とあるから、長篠合戦の前兆）Ⅶ（秀吉の未亡人とあるから秀吉の死後～関ケ原の戦いまでの間とわかる）Ⅷ（関東入封）Ⅸ（石川数正出奔事件だから小牧・長久手の戦い直後だとわかる）。Ⅳ→Ⅲ→Ⅰ→Ⅵ→Ⅴ→Ⅸ→Ⅱ→Ⅷ→Ⅶの順。あは、最初から3番目で、ⅠかⅢか。ⅠとⅢの順番が容易なのでⅠと確定。いは、最後から3番目で、ⅡかⅤ。最後から2番目がⅧだとわかり、ⅡとⅤの順番が容易なのでⅡと確定。

**8**　Ⅸ（石川数正出奔事件）はいつのことか知らなくても、大阪に行ったとあるから少なくとも大坂城築城開始（1583）以降のことだと推定できる。Ⅱは、朝日姫輿

入れだから、Ⅱよりも少し前でⅤ（築山殿・信康事件）の後の出来事だと推定できる。

9　b　そんなことどこにも書いていない。d　副田(そえだ)氏の存在は当時の史料では確認できないとある。

10　b　Ⅲ―ｉに書いていることだから近年の研究成果ではない。d　人質交換によって織田家から今川家に送られてきたでなければ、文意が通らない。

11　a 通説では、築山殿は殺害されたとされた。c　大岡弥四郎が武田家に内通していたことは自体は通説通り。

12　b　そんなことどこにも書いていない。d　秀吉は小田原を本拠にせよとは言っていない。

13　ア　人口は約 2 倍だとわかる。イ　厘取法は石高に対して何割何分何厘というかたちで年貢率を掛けて年貢量を決定する方法とある。

14　④本年貢は、屋敷地にも賦課された。

15　①旧暦 5 月にも施肥されている。③旧暦 9 月 3 日に稲刈りが開始されている。④大麦の種蒔きそのものが表中にない。③もし、坂本家全員が 3 日間連続で出動しても 7 人×3 日で、延べ 21 人になるから、坂本家以外の労働力があったことがわかる。

16　②竜骨車(りゅうこつしゃ)ではなく、踏車(ふみぐるま)。

17　XY　刈敷(かりしき)は、自給肥料。図２でも刈敷を使って田に施肥しているところが描かれている。

18　X　58 の 100 倍は、5,800 になるが、1867 年の明治維新年でも 4,293 となっている。Y　個別指導形式。

19　江戸城松の廊下にて浅野内匠頭(あさのたくみのかみ)が吉良上野介(きらこうずのけのすけ)に斬りかかった場面である。5 代将軍綱吉(つなよし)の治世、すなわち元禄(げんろく)年間に起きたから②。

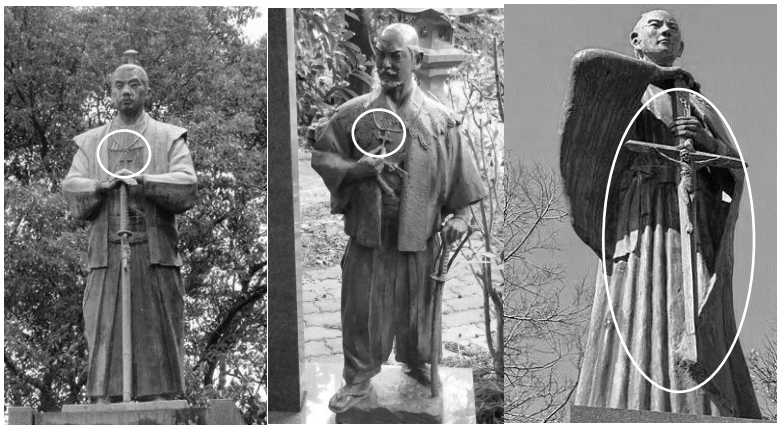
20　Ⅰ　文禄(ぶんろく)・慶長(けいちょう)の役が終わり、まだ日朝の国交が回復していない。Ⅱ　家光とある。Ⅲ　芳洲とは、対馬(つしま)藩に仕えた儒学者の雨森芳洲(あめのもりほうしゅう)だから、新井白石(あらいはくせき)と同時代の人物。Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ。

21　④日本関白は、豊臣秀保(ひでやす)か宇喜多秀家(うきたひでいえ)のどちらかだとある。①を選択した方は早計である。もし関白が秀吉を指すなら、史料の最後に、秀吉（花押）関白殿とあることが説明がつかなくなる。史料が出された年次には、秀吉は、関白職を秀次(ひでつぐ)に譲っている。

22　X　正文。Y　鐘が完成し、その鐘銘が問題になったのが方広寺鐘銘(ほうこうじしょうみょう)事件。もし、秀吉が存命していたら、家康は、俺の字を裂きやがってと言いがかりをつけることはできない。

23　b　聚斂益々重くとある。d　主殿頭の人の心服を失ひとある。

24　難しくない。①③④は全てクルスを下げているからキリシタン大名だとわかる。加藤清正(かとうきよまさ)は、キリシタンではない。また、日本史通の方は、清正のトレードマークである蛇の目紋長烏帽子形兜(ながえぼしなりかぶと)で即答できるだろう、①小西行長(こにしゆきなが)②加藤清正③大友宗麟(おおともそうりん)④高山右近(たかやまうこん)。



## 【第５回　近世史②解答】

灰色ベタ設問は 5 点。あとは 4 点。

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ■ | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 2 | ① | ■ | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 3 | ① | ② | ③ | ■ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 4 | ① | ■ | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 5 | ① | ■ | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 6 | ① | ② | ■ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 7 | ① | ■ | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 8 | ① | ② | ■ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 9 | ■ | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 10 | ■ | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 11 | ① | ② | ③ | ■ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 12 | ■ | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 13 | ■ | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 14 | ① | ② | ③ | ■ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 15 | ① | ■ | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 16 | ① | ■ | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 17 | ① | ② | ③ | ■ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 18 | ① | ② | ③ | ■ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 19 | ① | ■ | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 20 | ■ | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 21 | ① | ② | ③ | ■ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 22 | ① | ■ | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 23 | ■ | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 24 | ① | ■ | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |

## 【第５回　近世史②解答用紙】

灰色ベタ設問は 5 点。あとは 4 点。

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 2 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 3 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 4 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 5 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 6 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 7 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 8 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 9 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 10 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 11 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 12 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 13 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 14 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 15 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 16 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 17 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 18 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 19 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 20 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 21 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 22 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 23 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 24 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿学校【　　】

| 得点 |
| --- |
| |